

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101447		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	徳島市上八万町中山83番地の1		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの健康状態を把握し、適切な受診やリハビリテーションのための通院等を支援することにより、健康な状態を維持することができるよう支援している。職員は、積極的にレクリエーションを実施したり、個別の援助を行ったりして利用者とのコミュニケーションを密に図っており、良い関係を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かで自然豊かな場所に位置している。同一法人の運営する他サービス事業所が併設している。敷地も広く、裏山の木々や庭、駐車場先において季節の風景を楽しむことができる。事業所では、積極的に外出支援を行っており、日常的な散歩に加え、特別な外出や個別の外出支援等に取り組んでいる。栗、筍、ワラビ、セリ、ミョウガ、からし菜等、菜園や近隣でとれる季節の食材を活用している。野菜の収穫や下準備、調理、味付け、片付け等を利用者と職員で行っている。利用者のできる範囲で役割を担ってもらっている。利用者と職員と一緒に活動することを、日々の生活の重要なこととして取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し共有に努めている。利用者との日頃の関わりの中でプランの検討や理念の実践に取り組んでいる。	管理者と職員は、ミーティング等の機会に理念について話しあって共有化を図っている。理念の達成に向け、具体的なケアを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや文化祭などの催しに参加している。また最寄りの店舗へ日用品の買い物に出かけることで交流を図ると共に、近隣住民へ行事の参加を呼びかけ、地域の一員として生活ができるよう支援している。	事業所として町内の運動会や祭りへ出かけ、地域の人との交流を行っている。また、踊りや唄、ギター、フラダンス、折り紙等のボランティアの来訪も多く、相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議を通して、民生委員の方やボランティアの方と定期的に話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況について報告し、話し合いで頂いた意見や要望について職員間で検討し、サービス向上に活かしている。些細なことでも話しやすい雰囲気づくりに努めている。	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、地域のボランティア、地域包括支援センター職員の出席を得ている。事業所から積極的に参加を呼びかけ、多くの家族の理解を得ている。会議時に出された意見をサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係者に運営推進会議に参加して頂き、実情の把握と共に協力関係を築いている。必要書類や制度上の疑問点について課題の解決に繋げ、保護課には定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	市担当窓口を訪問し、実績報告書を提出している。その際、事業所の実情や取り組みを伝えている。また、分からないことや困りごとは、電話で連絡や相談を行って解決へと繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや資料を整備して職員に周知し、原則として身体拘束は行っていない。安全面から玄関を施錠しているが、一部の利用者には番号を伝え、希望者には自由に往来できるよう開閉している。	利用者の外出への希望を察知した際には、さり気なく声かけを行って、一緒に散歩するようにしている。事業所では、勉強会やミーティングを行い、身体拘束をしないケアについて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング時に関連法の理解を深め、虐待行為の防止に努めている。日々の業務内で意識が高く保たれるよう、ケアの方法について職員間で話し合いの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と具体的に話し合う機会を持ち、法人の顧問弁護士を通じて必要時に制度が活用できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明が行うため時間をいただくことを伝えた上で、手順に沿って重要事項を説明している。疑問点があれば理解が得られるよう丁寧な説明に努め、了承を得た上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族、利用者の意見や要望を聞き、議事録を送付している。また、面会時のやりとりから意向を引き出し、運営に反映できるよう取り組んでいる。	月1回、茶話会を開催し、利用者と職員でお茶を飲みながら意見や希望を聞くようにしている。また、家族の来訪時に丁寧に意見を聞くようにしている。出された意見や要望は、職員間で前向きに検討し、運営面に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で活発に意見交換が行えるよう定期的に勉強会や業務改善に向けた話し合いの機会を設けている。月2回開催する主任会議での検討を通じて運営に反映できるよう取り組んでいる。	日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に捉え、意見を聞くよう努めている。職員の声を運営面に活かすことで、働く意欲に繋げるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得に向けて支援し、資格の評価を行い能力に見合った定期昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に各1回行われている法人内、ホーム内研修に順番に参加し、研修報告書は全員が閲覧できるようにしている。研修情報も随時発信して参加を促すことでケアの質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に個々で交流を図ったり、他施設実習での交流を通じてサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人、家族と面談を行うことで心身の状態や本人の思いと向き合い、不安や要望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の状態観察や要望に耳を傾け、本人や家族の希望や悩みの把握に努めている。挨拶や会話で親しみやすく安心できる環境づくり、信頼関係の構築を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何に困っているのかをしっかりと聞き取り、適切な支援を見極めて必要なサービスにつなげられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力や意欲に合わせて家事などの役割をそれぞれが分担し、お互いに支え合うことで信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を聞きながら、共に本人を支えていく協力関係の構築に努めている。気軽に立ち寄って頂くため定期的に行事予定のお知らせや近況報告を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの美容院の利用や、法事などの急な外出にも柔軟に対応している。家族、友人の面会時には、気兼ねなく過ごせるよう雰囲気作りに配慮している。	家族の協力を得た上で、利用者の馴染みの美容院やお墓参りなどへ出かけている。知人や友人の来訪もあり、継続的な交流に配慮している。また、縁のある所へのドライブを楽しんでもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や個性を把握し、共に支え合いながら生活できるよう努めている。楽しく過ごせる時間や馴染みの関係が作れるよう職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった利用者や家族の支えとなれるようお見舞いに行き、少しでも不安が和らぐよう心のケアに努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情から思いを汲み取り把握に努めている。家族からも情報を得て共有することで信頼関係の構築を図っている。	日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。言葉での表現が困難な方には、表情や行動、態度等から真意を推し測るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りで得た情報のほか、サービス実施状況を用いながら情報収集に努めている。生活の場面ごとに個々の感じ方、対応の仕方の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるよう、月1回のモニタリングや聞き取りで得た情報と照らし合わせながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族に事前に聞き取った情報をもとに職員間で意見交換し、介護計画を作成している。状態の変化に応じ、そのつど見直しを行っている。	利用者や家族との関わりを通じて把握した希望等について職員間で話しあううえで、介護計画を作成するようにしている。また、チェック評価と文章評価を用いてモニタリングを行い、状況の変化に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきを個々のケア記録に記載し、職員間で情報を共有している。記録をもとに、介護計画の見直しや評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに応えられるよう柔軟に対応している。法人内の他部署や他事業所と連携し、業務改善などにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来訪や地域行事への参加で交流を行っている。また、地域包括支援センター、消防署、銀行等との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿って他医療機関の受診についても柔軟に対応している。状況に応じて家族と相談しながら、希望する医療機関の受診が円滑に行えるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院支援の多くを事業所が担っており、受診後には家族と情報共有を図るようにしている。情報のやりとりを通じて、家族との信頼関係の構築に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との情報交換を随時行い、健康管理や状態の変化に応じて受診の必要性の判断や助言を得ている。毎夕病院の当直看護師へ状態報告を行い、夜間の状態変化時の対応に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に情報提供を行い、医療機関と情報を共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。また、回復状況の把握や今後の方向性について本人、家族の意向に配慮しながら連絡調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の意向に沿って十分な話し合いがとれるよう体制を整えている。必要に応じて主治医を交えた話し合いを行い、今後の対応や方針を共有している。	体調の悪化や状況変化に応じて、医師や職員間で情報連携を図っている。事業所にてできる最大の支援について、本人や家族へ説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。月1回の勉強会やヒヤリハットで個々の事例を検証し意見交換することで実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもと避難訓練を実施している。隣接事業所との合同訓練も行い、災害時に備えて協力体制を築いている。運営推進会議では訓練の予定や実施状況を報告している。	事業所独自の防災・避難訓練を実施している。同一法人の運営する併設の他サービス事業所の協力も得て訓練を行っている。災害時に備え、水や米、カセットコンロ等の備蓄品を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を心がけている。注意すべき言動にはそのつど話し合い、意識向上に努めている。	特に排泄介助を行う際には、利用者の羞恥心に配慮したさりげない支援に努めている。また、利用者に敬意を払い、馴れ合いの言葉になりすぎないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所や職員の意向を押し付けず、複数の選択肢を提案することで、利用者の自己決定を尊重している。意思表示が難しい方でも、嗜好や関心のあることの把握に努め、希望に添った選択を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や意向を尊重した柔軟な対応を心がけている。個々のペースに添った活動や余暇の過ごし方に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や外出時に合わせた服装を整え、利用者の好みを大切にしながらその人らしさが表現できるよう心がけている。毎月1回の理容師の訪問や、馴染みの美容院利用の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや味付けに配慮している。家庭菜園で収穫した野菜を味わい食事が楽しめるよう工夫している。調理の準備や片付けを利用者と共に行い、昼食は職員と利用者が同じテーブルで食事を摂っている。	栗、筍、ワラビ、セリ、ミョウガ、からし菜等、菜園や近隣でとれる季節の食材を活用している。野菜の収穫や下準備、調理、味付け、片付け等を利用者と職員で行っている。利用者のできる範囲で役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を毎食把握している。食習慣に応じて嗜好品を加えたり、栄養バランスが偏らないよう利用者に合わせて摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは、個々の能力に応じて声掛けや介助を行いながら確認を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、生活習慣に沿って出来るだけトイレで排泄ができるよう声を掛け、一人ひとりに合わせた誘導を行っている。能力に応じてパッド交換や清拭を行い清潔保持に努めている。	日中、オムツを使用している人はおらず、見守りや一部介助を行うことで排泄の自立に繋げている。利用者一人ひとりの状態や時間帯に応じて、パットやポータブルトイレを使用し、安全に気持ち良く排泄することができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や個々に合った水分摂取への配慮、内服薬の状況を見ながら日頃の様子観察を行い、自然排便できるよう取り組んでいる。状況に応じて医師に相談しながら予防と対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や能力に応じた入浴方法が選択でき、他階とも連携しながらできるだけ希望に添えるよう支援している。楽しい気分で入浴ができるよう温泉を模した提灯を下げ言葉添えを添える等雰囲気作りにも配慮している。	午前中の中の入浴希望者が多く、多い方で週4回、少ない方では週1回の入浴を支援している。機械浴も導入しており、利用者一人ひとりの状態に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に応じて休息が取れるよう配慮している。夜間不眠の方には、日中の過ごし方に気を配りながら生活リズムが整えられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のダブルチェックを徹底し、服薬支援を行っている。個人別に薬の説明書を整理し、職員間で情報を共有している。症状が変化した時に照合し、医療機関への報告が円滑に行えるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園やパッチワークなど個々の希望に添った活動を通じて意欲的に生活できるよう支援している。余暇の過ごし方が自己決定できるよう、意向の把握と準備に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望やペースに応じて戸外に出られるよう配慮している。また希望に沿った外食や買物を企画し実施している。そのつど利用者の意見を聞き、次の計画に反映させている。	事業所では、日常的に利用者が近隣を散歩できるように支援している。また、外食やドライブ等を少人数で楽しむことができるようにしている。個別の買い物支援しており、一人ひとりが自由に暮らすことができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理することで得られる満足感を尊重し、能力に応じて職員と共同で管理を行っている。所持していない方でも、職員と一緒に買い物に出かけ好みの物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人の主催する季刊誌への投稿や、希望に応じた電話や手紙の取次ぎを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、料理をしている匂い、季節感のある献立、居室には馴染みの家具を置き、リビングの飾り付けを一緒に行うことで居心地のよい空間づくりに努めている。	共用空間では、ソファや椅子、机、テレビ等の位置を利用者に合わせて配慮している。季節の飾り付けを適度に行い、居心地の良い空間作りを行っている。仲の良い人同士が談笑したり、ソファで昼寝をしたりしており、一人ひとりが自由に活動できる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングに椅子やソファを配置し、一人で過ごしたり、仲の良い者同士で話をしたり、くつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にのれんを取り付けプライバシーに配慮している。馴染みの家具や日用品の持ち込み、好みの品の購入を通して、落ち着いて過ごせる空間作りをお手伝いしている。	本人や家族と相談し、居室の入口にのれんをつけたり、観葉植物を設置したりしている。利用者一人ひとりに、使い慣れた家具や日用品、写真を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚障害者に配慮した手すりの工夫や、動線に不要な物を置かないようにして安全の確保に努めている。トイレや自室がわかりやすいよう目印やのれんを取り付け環境の整備に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げている。プラン検討や行事企画の際、実践の方法について勉強会やミーティングを通じて話し合っている。	リビングに理念を掲示し実践できるよう常に検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	宅宮神社のお祭り、しらさぎ台の文化祭に作品を出展、上八万地区の運動会で一緒に競技をしたり、近所のスーパーへ買い物に出かけ交流している。	散歩や買い物であいさつから始まり顔なじみとなり、文化祭や運動会などに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して民生委員の方、ボランティアの方と話し合いを行っている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議を通して地域の方との話し合いを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の業務の状況や取り組みについて報告し感想や意見を頂いている。	参加者が些細なことでも意見を述べやすい雰囲気づくりに気を配りながら取組状況や報告を行っている。頂いた意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出書類、加算要件確認等分らない点は随時職員に連絡し教えてもらったり、保護課職員に定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	定期的に市担当窓口を訪れ、事業所の実状や取り組みを伝え、協働関係の構築に努めている。また消防署と協力して防災訓令や勉強会を開催する等の連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル、資料を整備し職員に周知している。また原則身体拘束は行っていない。施錠については家族の理解を得ているが、状況に合わせて開放し、自由に出入りできるように工夫している。	基準を理解しており、希望のある方には職員が開閉し、他の階へ自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで防止法の理解を深め、虐待行為の防止に努めている。虐待の自覚がないことの危険性についても常に話題にするようにしている。	資料やマニュアルを利用し、勉強会にて話し合いの場を設け虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内のバックアップ体制は整っており、その必要のある利用者については法人の顧問弁護士と相談を行い、いつでも活用できる体制がある。	勉強会を開き必要性を関係者と話し合い活用できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明手順があり、手順に沿って十分に説明を行い、契約解除の際にも家族や本人と話し合い理解、納得を得ようとしている。	説明に時間を要することを事前に伝え、マニュアルに従い十分に説明を行い理解を得ている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議の際に意見、要望を聞いたり、議事録を全家族に送付し意見や結果を見てもらっている。日常的にも利用者、家族の意見を伺い対応している。	家族会や面会時に意見や要望を引き出せるよう積極的に関わっている。出された意見が全職員に周知され、運営に反映できるよう話し合いの機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回開催法人主任会で部署の意見をまとめて発表したり、勉強会、ミーティングの時以外にも日常的に職員の意見、提案を受けて反映させている。	月2回開催法人主任会で部署の意見をまとめて発表したり、勉強会、ミーティングの時以外にも日常的に職員の意見、提案を受けて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得に向け支援し、能力にあった定期昇給もしている。毎月21日には勤務状況の報告を行っている。	責任者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得に向け支援し、能力にあった定期昇給もしている。毎月21日には勤務状況の報告を行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、ホーム内研修は月に各1回行われているので順番に参加してもらい、研修報告書は全職員が閲覧できるようになっている。	スキルアップを図る研修日程表を目につく所に掲示し、法人内外の研修に積極的に参加できる体制を整えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に交流を図ったり、法人内各部署との交流でサービスの質の向上に役立っている。	勉強会や外部研修を通して他施設との交流を図り、サービスの質の向上に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には面談し、本人の言葉を聞くようにしている。家族が安心できるような話を聞き説明を行っている。	本人、家族と面談を行い、心身状態、本人の不安や困っていること等に常に傾聴の態度で接するよう心がけている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人が何に困っていて、何を求めているかを聞き、事業所に出来るサービスを説明し、信頼を得る努力をしている。	家族様の不安や困り事、要望等に耳を傾けながら連絡、伝達をこまめに行うことで信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居が適切かを見極め、法人内の担当者と相談し家族に伝える。	独自のアセスメント表を利用し、一番必要とされる支援を見極め、他施設とも連携して対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活ができるように役割の分担(掃除、ゴミ捨て、洗濯干し)や声掛けを行っている。	共に生活し暮らし生活していく者同士、和やかに生活できるよう、また個々の能力を生かせる支援に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意向や本人への対応の相談をしている。本人の気持ちを汲んで頂き面会に多く来てもらったり、外出(外食、美容院等)に出てもらったり、穏やかな生活に協力してもらっている。	日常生活の報告を定期的に行い、運営推進会議への参加も呼びかけ、協力し合える関係の構築に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出の支援や友人が訪ねてきた時にはゆっくり話ができるよう配慮している。	面会が気軽にでき、入居者様との関係等を把握し、墓参りや法事等急な外出にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別にゆっくり話を聞いたり、月1回茶話会を開催したり、毎日午前と午後レクリエーションの場をもうけ交流を図ったりしている。また、関係が円滑になるよう働きかけをしている。	利用者同士の関係、個々の能力や性格等を把握し、交流の場を設け馴染みの関係が作れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった本人、家族共に不安は大きいのでお見舞いに行き、話を聞き心のケアに努めている。また退院前後の相談にも応じている。	入院、退居となった方などにはお見舞いに行き、話をしたり相談を聞いたりして心のケアに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で言葉や表情、仕草等から汲み取って把握に努め、また家族からの情報も得るようにしている。	希望、要望を伺い、ケアプランを作成の上、全職員への周知徹底に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りで得た情報以外にも生活の場面ごとに個々の感じ方、対処の仕方を理解することに努めている。	利用者、家族、関係者等から情報収集に努めている。日々の関わりの中から得た情報を生活歴に書き加えて職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや出来ること出来ないこと、毎日の状態を把握している。ミーティングで話題にし、記録に残して他の職員と共有している。	一人ひとりの日々の過ごし方を観察し、出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時に、県外の方は電話で意見を頂く。本人には日常生活の中で自然に意見を聞き、職員全員で意見交換を行い、計画作成している。	本人、家族の希望や要望をもとに、全職員で意見を出し合い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきは個々のケア記録や申し送りノートに記載し、職員は情報を共有し記録を元に見直し、評価を行っている。	個別の介護記録に、その日の状態や言動を記録し、職員間の情報共有に努めている。また個別記録を元に計画の見直しや評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出、通院には柔軟に対応している。	利用者、家族の状況や希望をもとに、職員間で意見を出し合い、柔軟に対応できるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、ボランティア団体との共同、消防署、銀行等との連携を図っている。	地域包括支援センターやボランティア団体との協同、消防や銀行等との連携を行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院と医療連携を図り本人、家族の希望も大切に受診援助を行い、他病院受診についても柔軟に対応している。	本人、家族の意向を聞き、提携病院以外の受診についても柔軟に対応している。受診介助や送迎を含めて家族と相談しながら支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との連絡は随時行い、健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。毎夕に法人の病院の当直看護師へ状態報告を行い、夜間の状態変化時の対応に備えている。	関連病院との連携を密にし、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。必要時には24時間体制で看護師もしくは医師に連絡して相談や協力を依頼している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを渡したり、見舞いに行ったり電話で関係者と情報交換している。	病院との情報交換、共有を密に行っている。入院の際は、職員がこまめに病院を訪問し、利用者の環境の変化からくる不安を取り除くよう配慮している。家族と相談のうえ、早期退院に向けて医療関係者との情報共有に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先して行ってはいないが本人、家族、関係者と十分に話し合いを行う体制である。	主治医の指示のもと、利用者の状態に応じて家族や関係者と十分な話し合いの時間がとれるよう体制を整えている。家族会でも知らせ方針の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、定期的に勉強会を開催することで周知徹底を図っている。	急変時対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。体調の変化に応じ、随時医療機関へ連絡し、指示を受ける体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難マニュアルを整備し、年2回春と秋に利用者と共に避難訓練を行っている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。運営推進会では訓練の予定や実施状況を報告している。	非難マニュアルを整備し、年2回春と秋に利用者と共に避難訓練を行っている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。運営推進会では訓練の予定や実施状況を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を理解し、丁寧な言葉かけを心がけている。特に名前を呼ぶ際には、特別な場合を除き必ず苗字で呼ぶ事を徹底している。	プライバシーを守り、人格を尊重した言葉遣いや対応を心がけている。不適切な対応にはそのつど注意を促し、職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めたことを押し付けるのではなく複数の選択肢を提案し、気持ちの変わりやすい方にはそのつど確認し自己決定を尊重している。	思いや希望を表現できる雰囲気作りに努め、気持ちの変わりやすい方にはそのつど確認し、自己決定を尊重している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活上必要な一日の流れを見やすいようリビングに貼りだしている。利用者が合わせやすいよう説明し、無理強いとしないよう心がけている。	希望に応じた支援を心がけ、気分転換や趣味活動を支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のセンスを大切に、身だしなみの手伝いをする。美容師に直接説明できない人は代わりに職員が代弁するなどのお手伝いもしている。	その人らしさが表現でき、気持ちを引き立てるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の過程で献立によりお手伝いや片付けを利用者と共に行い、皆で同じテーブルに着き楽しく食事ができるよう配慮している。	意向や能力に応じて職員と共に食材の下準備をし、配膳や片付けを行っている。昼食は入居者と職員が同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し、食事が進まない時は嗜好品を加えたり、おかゆやおにぎりど形を変えたり工夫している。体調に応じて居室で食事を摂って頂くこともある。	好みに応じこまめな水分摂取に努めている。管理栄養士の作成する栄養バランスの取れた食事を提供すると共に、利用者の好みや味付けに配慮している。能力に応じて副食を刻む等工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、個々の力に応じたお手伝いをしている。就寝前には義歯の洗浄や管理を行っている。	毎食後、口腔ケアを行い能力に応じた支援をしている。毎晩、就寝前は義歯の洗浄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない誘導、声掛けにてトイレでの排泄を促している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導や声かけで促している。能力に応じておむつ交換や清拭を行い、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や個々に合った飲み物の工夫で水分摂取してもらい自然排便できるよう取り組んでいる。それでも改善されない場合は随時主治医への相談を行っている。	十分な水分の摂取や毎日の体操による運動を促進に配慮し、便秘予防に取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活上希望に添えない時もあるが、そのつど説明し理解を得て、後日その利用者の希望を優先するなどの配慮をしている。	言葉かけや入浴時間、同性の職員に交代する等、様々なアプローチで入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。前夜の睡眠状況を把握し休息をとって頂いたり、夜間不眠の顕著な方には家族や医師にこまめに相談し対応を検討している。	一人ひとりの生活習慣に応じた支援を行っている。夜間不眠の方には、日中の過ごし方や適度な休息に配慮している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を整備し、受診記録をつけ職員間で情報を共有している。服薬チェックを行い身体状況に変化あれば医師や看護師に報告を行っている。	一人ひとりの服用薬を時間帯別に整理し、服薬支援を行っている。変化があった場合には、提携病院への受診や24時間いつでも相談できる体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野で一人ひとりに合った役割を持って頂き、実施後には感謝の言葉を忘れないようにしている。	希望や生活歴を参考に、能力に応じた役割が担えるよう支援している。趣味活動や散歩、定期的な買い物等で気分転換が図れるよう取り組んでいる。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や気分に応じて天気の良い時に散歩や日光浴に出かけたりドライブや買物を企画している。	希望に添った散歩や買い物の支援を行い、地域とのふれあいや出かけることの喜びを感じていただけるよう努め、外食やドライブ等を計画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット1 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方は常時お金を持つことはしないが、支払いの時はレジでの動作が行えるよう付き添い支援している。	外出行事や買い物の際、好みの物が購入でき可能な限り利用者が支払いをできるよう、希望や能力に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には本人より家族に電話してもらっている。プライバシーに配慮しながら個別に支援している。	希望に応じて、手紙や電話の取り次ぎを支援している。携帯電話を所持し、ご家族と自由に連絡を取り合う方もいる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けを利用者と一緒に行い、共に空間を作ることで自分の住まいだという意識を高めてもらっている。	生活感や季節感を採り入れた共用の空間で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングに配した椅子、ソファで仲の良い方と楽しく語り合ったり、うたた寝したりしている。	一人で過ごしたり気の合った者同士で過ごしたりできるよう、テーブルやソファの配置等に配慮している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品、家具、写真を持ち込んでもらい、ホーム内で自作した作品や必要な物品の購入を支援することで、安心できる環境作りのお手伝いをしている。	慣れ親しんだ家具や季節感のある作品を飾ることで居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに解りやすく張り紙をしたり、解りにくいところに目印をつけたり、動線に障害物がないよう注意したり環境整備に努めている。	目印をつけたり、夜間に居室でポータブルトイレを使用できるようにしたり、必要な声かけや誘導を行っている。	